

令和3年度 4月 訓示

令和3年4月1日

礼文町長 小野 徹

「宿命に生まれ 運命に挑み 使命に燃える」

～「宿命」とは、どこにどう生まれたか、自分の力では、如何ともしがたいことで、自分の意思でその現実を変えることはできません。

しかし、自分ではどうすることもできない「宿命」を嘆くのではなく、これを受け入れながら「運命」に対して私たちは果敢に挑むことができます。

夢を持ち、その夢の実現のためにチャレンジし、その中で、自分の一生を捧げたいと思うことが見つければ、それをこの世に生を受けた「使命・天命」と思って命を燃やさない… と教えています。～

皆さん、おはようございます。 いよいよ令和3年度の始まりであります。

まず、5名の新採用の皆さんと6名と地域おこし協力隊の皆さんに申し上げます。 皆さんは大きな夢と希望を持って公務員の道を選ばれ、晴れて、礼文町の職員となられたわけです。

今、こうして皆さんの顔を拝見しておりますと、溢れんばかりの若さが^{みなぎ}漲っており、真に、頼もしく感じられるところでございます。 心から、おめでとうとお祝い申し上げます。

皆さんが職員になられた礼文町は、1880年(明治13年)この香深地区に戸長役場が開設され、その歴史が始まったのでございます。 その後、南側の香深村、北側に船泊村と分かれていましたが、昭和31年(1956年)、昭和の大合併により礼文村となり、昭和34年に礼文町となった町でございます。

礼文町になって61年。1980年(昭和55年)には開基100年を迎え、盛大に記念式典が行われました。次は2030年(令和12年)に開基150年の記念式典を行うことになっています。

今年は 2021 年、あと 9 年で開基 150 年を迎えますが、特にこれからの 9 年がわが町にとって大事になるわけであり
ます。

役場というところは、町民の皆さんの暮らしを守る仕事、
まちをつくる仕事、まちの動きを支える仕事など様々な仕事
があります。皆さんは自分の力で礼文町の未来をもっと輝
かせたいという強い大きな志をもって、この礼文町を選ばれ
たと思います。ただ、最初から華やかな活躍をするのは難
しいかもしれませんので、まずは、目の前の仕事を着実に
行いながら、島の情報や幅広い知識を吸収して、一日も早く町
民の皆さんから必要とされる職員になるよう、私は大きな期
待を込めて皆さんをお迎えしたいと思っています。

では、ここからは全ての職員に申し上げます。今年の人
事異動は少し大きめの異動となりました。それぞれ昇任昇
格された皆さんには心からお祝いを申し上げます。厳しい
状況の中ではありますが、職員がスクラムを組んで、元気な礼
文づくりに一層邁進されますよう、期待をしております。

また、いつも言うことではありますが、異動された方、異動しなかった人、それぞれに意味があるのだということを、しっかりと考え、仕事に励んでいただきたいと思います。そのうえで、特に二つのことを申し上げます。

まず、1点目は、皆さんもご承知のとおり、今なお、新型コロナウイルスが蔓延しており、ようやく緊急事態宣言は解除されましたが、今も新規感染者が増加しておりまして、県境をまたいでの往来が自粛されてはいますが、依然として人々の動きが活発になっております。

道内においても、変異ウイルス感染者が増えてきたことから、今月16日まで、札幌との不要不急の往来を控えるようにという厳しい自粛要請が出されました。

わが町のコロナワクチン接種も5月の連休明けになると思っておりますが、収束にはまだ時間がかかるようであります。

そんな中で、なんと云いまして、昨シーズンの礼文島観光は、観光客が見えない、宿泊客がいないという極めて深刻な状況でありましたが、今年の礼文島観光も同じように大きな影響が懸念されております。

ご承知のとおり、観光というのは宿泊だけでなく、運輸、交通、外食、土産、そしてお米や野菜、飲み物の小売店まで、あらゆる業種に関連するだけに、礼文島の経済に大きな打撃を与えると町民の皆さんは今年も大きな不安を抱えているわけでありますので、その対策が急がれると思います。

去年はコロナ禍にあって様々な行事を行うことができませんでした。

このため町民の皆さんがコロナ禍の中でどんなことを思い、悩み、何を望んでおられたのか、町民の皆さんの声を聴く機会が大変少なくなっております。

そんな中、今年の仕事始めに、「庁舎の外へ出て町の声を聴くように」と皆さんに申し上げました。

町民の皆さんに「寄り添う」という気持ちを持って、今、何を求めているかを聞いていただきたいのであります。

私たち職員が町民の皆さんに「寄り添う」という強い気持ちを大切にして、町民の皆さんから「頼れる役場職員」であるという自覚、使命感を持っていただきたいと思っていますのでございます。

そして、もう一つは、行政の仕事は私一人ではもちろん、誰か一人の力だけで動くものではないと云うことであり、今取り組んでいることがすぐに結果として見えるものばかりでもないということでもあります。

ですが、私たちは、20年後、30年後の人たちに何を残せるか、将来の負担をいかに減らしていけるかを常に念頭におき、礼文町の明るい未来を創るという志、使命を持たなければなりません。今話題の「誰も取り残さないという^{エスディジーズ}SDGsの理念」、この「^{エスディジーズ}SDGs」のことについては、また、別の機会にお話をいたしますが、若者が将来に明るい希望の持てる持続可能なまちづくりを進めるという「^{エスディジーズ}SDGsの理念」を踏まえ、礼文島の豊かな地域資源に「何か」を掛け合わせて、誰もが幸せを感じながら住み続けられる礼文町を創り上げていくことが必要です。地方創生も然りであります。このことを職員皆でもっともっと考え、一丸となって取り組むことが必要です。そして、「^{エスディジーズ}SDGs」の理念に基づいた事業を確実に行っていくことで町民の皆さんとの固い絆をつくり、礼文町の未来を明るくすることができると私は信じています。

先人から受け継いできた美しい礼文島の自然、文化、伝統など等、誇りある礼文町をより善いまちにして次世代に引き継ぐこと、それが私たちに与えられた使命であると思います。

「使命」という言葉が出ましたので、ここで、故小渕恵三元総理が好んで使われた言葉「宿命に生まれ 運命に挑み 使命に燃える」をご紹介します。

この言葉は、プロの行政マンとして、町民の生命と財産を守っている皆さん方職員にも当然のごとく当てはまることだと思います。

「宿命」とは、どこにどう生まれたか、自分の力では、如何ともしがたいことで、自分の意思でその現実を変えることはできません。

しかし、自分ではどうすることもできない「宿命」を嘆くのではなく、これを受け入れながら「運命」に対して私たちは果敢に挑むことができます。この世に授かった命を自らの意思、行動、選択で果敢に道を開いて運び、世の中のためにどう使っていくかは自分の考え方生き方次第ということなんです。自らの役割を果たすため、情熱をもって歩いていくこと。夢を持ち、それに向かって努力すれば「運命」は必ず開けると云います。

夢の実現のためにチャレンジし、その中で、自分の一生を捧げたいと思うことが見つければ、それをこの世に生を受けた「使命・天命」と思って命を燃やさないかと教えています。

そして、その境遇をどのように受け入れていくかは、繰り返しになりますが、自分自身の考え方生き方次第なのだと云われているのでございます。

どうぞ、皆さん、役場職員としての使命感を持ち、それを磨き上げて、たった一度しかない人生という舞台上、自分を主人公にして光り輝かせていただきたい、そう願っております。

結びになりますが、令和という新しい時代、職員の皆さんが使命感をもって「町民皆さんの幸せのために寄り添う職員」、「笑顔で人のために進んで頑張れる素敵な職員」になっていただくことを心から期待して令和3年度の訓示といたします。

一緒に頑張りましょう！